

水俣工場の排水を即時停止

浄化装置も年内に

通産省、新日窒に指示

上京中の浜崎熊本県衛生部長から二十九日寺本知事にあてて送られた報告によると、通産省はこのほど新日本窒素肥料株式会社本社（東京都千代田区）に対し①同社水俣工場の水俣川河口（八幡地区）への排水は即時停止すること②同工場が来年三月までにつくる予定の廃水浄化装置は年内に完成すべきことを指示した。

これは通産省の秋山幹葉局長が、二十一日口頭で指示したもので、同局「薬用水課では、この指示は法的拘束力はないが、工場が最近水俣川河口に廃液を流して社会問題を引き起こしているために取った行政指導である。また浄化装置も本年中に完成させるよう指示した」としている。

同工場の排水溝は水俣川河口と百間港の二方所にあり、現地漁民は「水俣川に昨年から強い悪臭の廃液が流されたてから河口付近や隣接の草北郡津奈木村にも患者が出た」として河口の排水ストップを工場側に要望していた。このため工場側でも十月末までは、廃水を工場

で循環させ、海にはほとんど流さないようにする考えだった。

浄化装置とは直径十層のシツリナー（大きな水槽のようなもの）二基をつくりこれに廃水を送って浄化された水だけを海に流そうというもので、六千万円をかけて来年三月に完成させる目標だった。これについて石野同工場次長と川村同県衛生部長は「またなにも通知をうけていないが」と前向きに話した。

八幡工場排水はカーバイド残さの処理（ろ過設備）のほか、か排水を工場へ逆送するポンプ設備（二方所）などの循環装置も完成、海への排水は、二十九日完全にゼロとなった。設備費約

四千万円（維持費毎年一千万円）で来年三月末完成予定の工場内浄化装置については現在着工もすすめているが、東京の住原インフィルコ（米国廃水処理専門会社インフィルコの技術を導入してやっている会社）に頼んでいるサイクレーターとセディフローター装置に必要な機械がまだ到着していないので、これが早くつきさえすれば確約はできないが、年内完成にこぎつけることもできると思う。

◇中村同市漁協理事の話 あいつぐ陳情団の上京でようやく水俣病問題に関する中央の動きも活発となり、年内に浄化装置が完成して水俣病が全然でなくなったらこれ

水俣漁民はさる九月工場から三千五百万円の補償金をもらったが、そのほとんどを借金の返済などにあてた。また同漁民は漁業禁止区域の設定には、せまい漁場がなおせまくなるのであまり歓迎していないようだ。何といつても食うことが先決問題だ。

より望ましいことはない。しかし何よりもまず病原因究が必要だ。